

社会科学研究所創立70周年記念講演会

長年の研究成果報告



社会科学研究所(社) 宮崎晃臣所長は創立70周年を迎え、記念講演会を12月21日、生田キャンパスで開いた。佐々木重人学長や所員ら多数が参加した。



『70年史』の出版記念祝賀会であいさつする村上前所長

社会科学研究所(社)は、専修大学が新制大学に移行した1949年4月に誕生。経済学をはじめとする諸社会科学の総合的研究を行うことを目的としている。現在は、所員を中心に研究参加、客員研究員あわせて280人で構成される。学部横断的である特色から、現状分析だけでなく歴史研究なども行い、国内外での調査活動も活発。ベトナムのベトナム社会科学院東北アジア研究所と国際交流組織間協定を結ぶなど、海外の大学研究機関とも研究交流を重ねている。

記念講演会では、所長を務めた水川侑、柴田弘捷、村上市俊介、村上俊介の4名が「グローバル資本主義の進展とそれが日本経済に及ぼした影響」や「地域経済の現状を、国内外で行ってきた社研の調査活動などを基に報告した」。

『70年史』出版記念祝賀会も 第2部は会場を生田キャンパス「蒼翼の間」に移し、2020年1月20日発行の『専修大学社会科学研究所70年史』の出版記念祝賀会が催された。出版編集委員のチーフを務めた村上前所長は「この出版を次の100年史につなげていきたい」とあいさつした。

1月25日(土)には蒼翼の間で70周年記念公開シンポジウムを開催する。

法学研究所(深澤民司所長)主催の「学生と市民のための公開講座」法と政治の現況I(全3回)が12月6日、神田キャンパスでスタートした。現在起きている「法と政治」の問題を取り上げ、現場を熟知した専門家や現職者、課題今後の予測に関する議論する企画。

1回目は岡田憲治法学部教授が司会・コメントーターを務めた。政治ジャーナリストの常井健一さんが「フリージャーナリストはいかに政治をえぐるか?」と題し、メディアに属する記者の現状、記者クラブの弊害について、自身の体験を基に分かりやすく話し

法学研究所(深澤民司所長)主催の「学生と市民のための公開講座」法と政治の現況I(全3回)が12月6日、神田キャンパスでスタートした。現在起きている「法と政治」の問題を取り上げ、現場を熟知した専門家や現職者、課題今後の予測に関する議論する企画。

1回目は岡田憲治法学部教授が司会・コメントーターを務めた。政治ジャーナリストの常井健一さんが「フリージャーナリストはいかに政治をえぐるか?」と題し、メディアに属する記者の現状、記者クラブの弊害について、自身の体験を基に分かりやすく話し

津田大介さん語る「あいちトリエンナーレ・その後」連続講座 一部の展示が中止となり、その後再開された国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」で芸術監督を務めたジャーナリストの津田大介さんが12月5日、神田キャンパスで講演した。専修大学現代ジャーナリズム

津田大介さん語る「あいちトリエンナーレ・その後」連続講座 一部の展示が中止となり、その後再開された国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」で芸術監督を務めたジャーナリストの津田大介さんが12月5日、神田キャンパスで講演した。専修大学現代ジャーナリズム

津田大介さん語る「あいちトリエンナーレ・その後」連続講座 一部の展示が中止となり、その後再開された国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」で芸術監督を務めたジャーナリストの津田大介さんが12月5日、神田キャンパスで講演した。専修大学現代ジャーナリズム

津田大介さん語る「あいちトリエンナーレ・その後」連続講座 一部の展示が中止となり、その後再開された国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」で芸術監督を務めたジャーナリストの津田大介さんが12月5日、神田キャンパスで講演した。専修大学現代ジャーナリズム

公開講座情報 千代田区神田にキャンパスを構えた専大、明大、中大、日大の明治時代から現代のスポーツの歴史を振り返る。2月15日(土)の文学部・近江吉明教授の最終講義の会場は、生田キャンパス10103教室に変更になりました。

最終講義 2月15日(土)の文学部・近江吉明教授の最終講義の会場は、生田キャンパス10103教室に変更になりました。

最終講義 2月15日(土)の文学部・近江吉明教授の最終講義の会場は、生田キャンパス10103教室に変更になりました。

最終講義 2月15日(土)の文学部・近江吉明教授の最終講義の会場は、生田キャンパス10103教室に変更になりました。

なぜ組織は個を活かせないのか 馬場杉夫著 個の主体性を活かす必要を感じている人や組織は少なくない。企業の利益の源泉は、個の働きに依存しているからである。しかし個を活かしていかない原因を正しく認識できていない人はわずかにある。

なぜ組織は個を活かせないのか 馬場杉夫著 個の主体性を活かす必要を感じている人や組織は少なくない。企業の利益の源泉は、個の働きに依存しているからである。しかし個を活かしていかない原因を正しく認識できていない人はわずかにある。

なぜ組織は個を活かせないのか 馬場杉夫著 個の主体性を活かす必要を感じている人や組織は少なくない。企業の利益の源泉は、個の働きに依存しているからである。しかし個を活かしていかない原因を正しく認識できていない人はわずかにある。

なぜ組織は個を活かせないのか 馬場杉夫著 個の主体性を活かす必要を感じている人や組織は少なくない。企業の利益の源泉は、個の働きに依存しているからである。しかし個を活かしていかない原因を正しく認識できていない人はわずかにある。